

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 3日

事業所名 放課後等デイサービスかしのき教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	個別支援のためのスペースを区切っている	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	加配まで取れている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	75%	25%	エレベーター及び空間の広さは配慮されている	エレベーターフロア前の階段はそれ以外の方法でアクセスできることを保護者に通知していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	業務改善については、全指導員及び管理者が話し合っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	年1回保護者の方へ自己評価のアンケートを実施。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	自社ホームページにて公開	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者評価に向けて外部事業者の選定を検討していく
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を月1回開催するとともに、市や他事業所主催の研修に積極参加を推奨して保護者と1時間程度お話をする機会を持ちつつ、子どもたちに必要な支援をスタッフ全員で協議している	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%	アセスメントシートなど全員共通の書式を利用	評価の仕方など統一していく必要がある
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	スタッフ全員で会議を行い指導内容は決定している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	スタッフがローテーションで入ることにより、必要な支援のアプローチを多様化出来ている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	75%	25%	長期休暇には宿題の計画なども立て、充実した休日を送れるよう	季節を感じられるような取り組みを検討
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	基本的には個別支援をメインにしているが、時折児童同士の関わりを持てるようにもしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	児童が来るまでの間に毎日ケース会議を行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	早急に対応や検討が必要な事項については適宜管理者を中心に報連相が出来るよう配慮している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	75%	25%	授業内容についてまとめる書類及びPC上での記録の整備をしている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	必要に応じて変更を検討している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	児童の支援を中心しつつ保護者支援なども適宜組み合わせ合わせている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者を中心に参加	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	75%	25%	保護者の方と相談し、必要に応じて共有はしている。	より綿密に状況を知れるような仕組みについて検討をしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	25%	75%		現状必要な児童がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	25%	75%		こちらから積極的に働きかけていく仕組みを検討
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	25%	75%		現在必要な児童がいないが、準備はしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	25%	75%		連携できる基盤がないため、今後基盤づくりが出来るよう検討していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		イベントなどへの招待を含め関わる機会を作っていけるよう検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	25%	75%		会議について開催時期などを調べ参加を検討していく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	LINEや連絡帳を通じて保護者の方へ支援内容や様子をお伝えしている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	75%	25%	モニタリング時にお話を聞きつつアドバイスという形では対応している	ペアレントトレーニングを出来るスタッフを育成していくことを検討する
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約開始時に必ず説明のお時間を頂いている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談についてはお会いしたたびにいつでもお受けすることを口頭にてお伝えしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	25%	75%		希望されていない保護者も多い中でどのような形が良いか検討していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	玄関への案内の設置、及び契約時の説明をしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	75%	25%	行事があるときなどは告知文章の形でお伝えしている	かしのきでの支援をお伝え出来る形での広報誌の必要性などは検討していく
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	年1回研修にて個人情報の取り扱いについて取り上げている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	必要性に応じてフリガナなどは対応している	点字など幅広い方々に配慮した資料作りを進めていく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	25%	75%	講演会などを開いた際には地域の方々に参加いただく機会もある	行事や子どもたちが楽しめるもので地域と連携できるものを模索していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	避難訓練と、事前にマニュアルについて全員で確認している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	避難訓練と、事前にマニュアルについて全員で確認している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年1~2回虐待防止研修及び委員会の開催をしている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	虐待防止研修と共に身体拘束についても研修を行っている	現状該当する児童がいない
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		飲食については原則禁止。水分は持参頂いている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	作成しており、年1回振り返る機会を作っている	